

ウェルビーイングと ファイナンシャル・ウェルビーイング

ウェルビーイング学会 副代表理事

東京大学公共政策大学院教授

慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授

鈴木寛

国際機関や各国におけるWell-being関連の動き

➤ 2009年にサルコジ大統領が設置したスティグリッツ委員会報告書(GDPの限界を指摘するとともに、複数の指標を見ること、主観的 Well-beingを計測すること等を提言)をきっかけに、国際機関、各国における Well-beingに関する動きが加速。

国連

- 「World Happiness Report」を2012年から毎年公表し、各国の生活満足度をランキング（日本は概ね50位で低迷）。
- グテーレス事務総長が2021年に公表した「Our Common Agenda」において、6つの主要課題のうちの一つとして、GDPを補完する新たな評価基準（Beyond GDP）の導入の必要性を指摘。
- 上記を受けて、Beyond GDPについて分野横断的なハイレベル専門家グループを設立し、10～20の指標からなるダッシュボードの構築を進める

OECD

- 2011年より加盟国のWell-beingの動向をモニターすることが可能な「Better Life Index」を公表。健康や社会とのつながりなど15分野で構成（分野毎に複数指標が設定）されており、個々の指標、各分野の値について各国比較が可能。
- 2013年に「主観的Well-beingの計測ガイドライン」を公表。2025年に当該ガイドラインの改訂を行う予定。
- 2020年にWell-beingを専門とする組織であるWISEセンターが設立。Well-beingに関する指標の策定・公表に加え、各国におけるWell-beingの計測と政策活用についての情報共有を進めている。

DEFINING A
NEW ECONOMIC PARADIGM

THE REPORT OF THE HIGH-LEVEL MEETING
ON **WELLBEING AND HAPPINESS**

2 APRIL 2012 · UNITED NATIONS HEADQUARTERS · NEW YORK

2012年、国連は
あらたな経済社会のパラダイムとして
Well-beingを提案



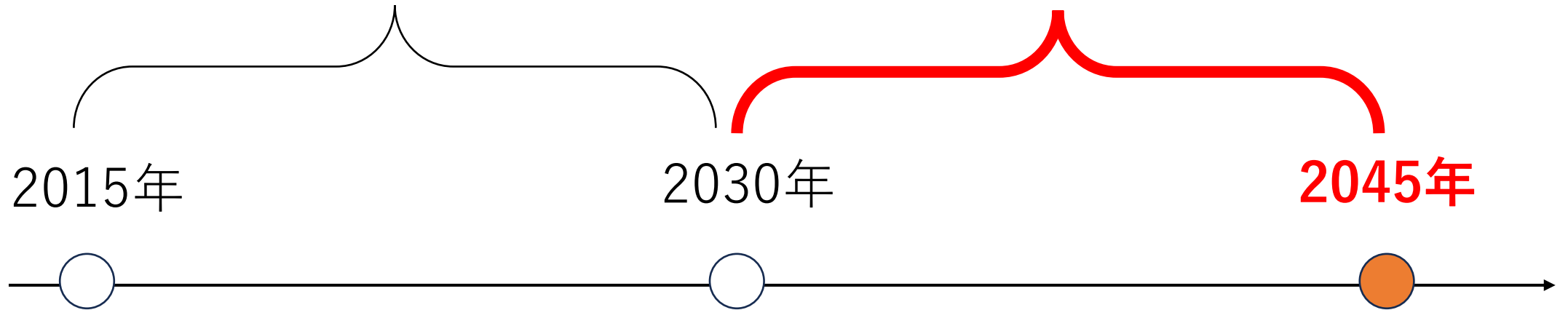
その象徴として
毎年World Happiness Reportを発行

SDGs

(2015 – 2030年)

Beyond SDGs

(2031 – 2045年)



2015年

2030年

2045年

SDGs採択

SDGs終了

国連生誕
100周年

Beyond SDGsに向けたマイルストーン



Beyond GDPとして、Well-beingが明確に提唱された

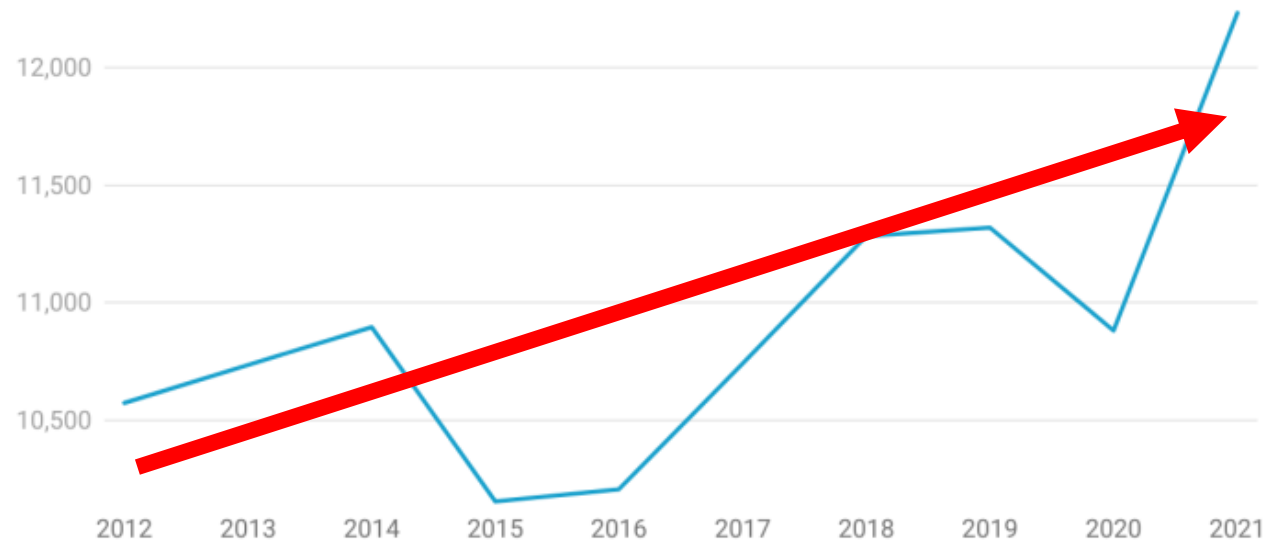


- a) **Well-being and agency.** Putting the focus on people and promoting meaningful participation to ensure that decisions reflect people's needs and enable everyone to contribute to transformational change;
- b) **Respect for life and the planet.** Safeguarding the planet and ensuring possibilities for life and well-being in the future;
- c) **Reduced inequalities and greater solidarity.** Making efforts towards a more equal distribution of well-being.

2012年からの10年間で、世界のGDPは伸びるも、ウェルビーイング実感は悪化した・・・

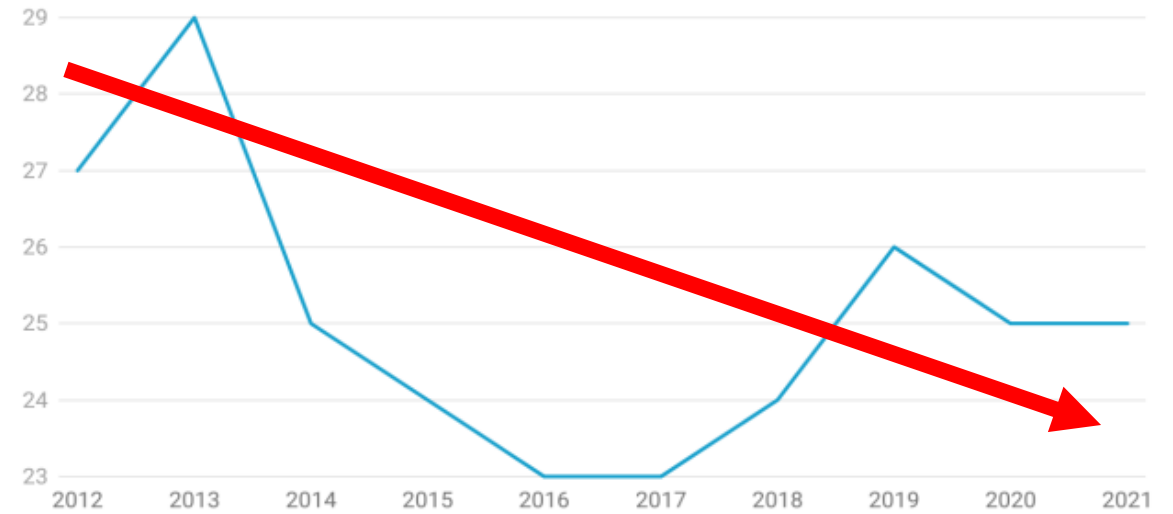
World GDP per capita between 2012-2021 (current US\$)

Source: The World Bank



Percentage of world population who is thriving between 2012 - 2021 (%)

Source: Gallup World Poll



将来世代宣言の大きな狙い

16. We reaffirm our pledge, made on the occasion of the seventy-fifth anniversary of the United Nations, to reinvigorate global action to ensure the future we want and to effectively respond to current and future challenges, in partnership with all relevant stakeholders. We recognize that the well-being of current and future generations and the sustainability of our planet rests on our willingness to take action. To that end, in this Pact we commit to 56 actions in the areas of sustainable development and financing for development, international peace and security, science, technology and innovation and digital cooperation, youth and future generations, and transforming global governance.



“現世代および将来世代のWell-being”

&

“地球のサステナビリティ”

に向けて国際社会は、具体的な56の行動にコミットしていく

- b) Agree to the establishment of an independent high-level expert group to develop a value dashboard of a limited number of key indicators (not more than 10–20) that go beyond GDP, using the report of the High-level Committee on

Beyond GDPにむけ

10 – 20項目からなるダッシュボード（指標群）を作成



GDW（Gross Domestic Well-being）の礎になりそう

2023年10月23日、岸田総理による所信表明@臨時国会



Source: https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231023/k10014234351000.html?fbclid=IwAR0PPoMjDUeR2F1KnMu56FU-mdbebiG_gUk1huboK61n7eUfnPf2oeumgsk

持続的な賃上げに加えて、人々のやる気、希望、社会の豊かさといったいわゆる「ウェルビーイング」を拡げれば、この令和の時代において再び、日本国民が「明日は今日より良くなる」と信じていることができるようになる。

日本国民が「明日は今日より良くなる」と信じられる時代を実現します。

岸田政権は、歴史的な転換点の中で、変化の流れをつかみ、変化を力にしていきたいと思います。

私自身、その先頭に立って、職を賭して粉骨砕身取り組む覚悟です。

国民の皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

骨太方針におけるWell-being関係の主な記載

2017

従来の経済統計を補完し、人々の幸福感・効用など社会の豊かさや生活の質（QOL）を表す指標群（ダッシュボード）の作成に向け検討を行い、政策立案への活用を目指す。

2018

国民の満足度、生活の質の向上が実現されるよう、満足度・生活の質を示す指標群を構築するとともに各分野のKPIに関連する指標を盛り込む。

2019

我が国の経済社会の構造を人々の満足度（well-being）の観点から見える化する「満足度・生活の質を表す指標群（ダッシュボード）」の構築を進め、関連する指標を各分野のKPIに盛り込む。

2020

人々の満足度（well-being）を見える化し、分野ごとのKPIに反映する。

2021

政府の各種の基本計画等について、Well-beingに関するKPIを設定する。

2022

各政策分野におけるKPIへのWell-being指標の導入を進める。

2023

政府の各種の基本計画等におけるKPIへのWell-being指標の導入を加速するとともに、こどもに着目した指標の在り方について検討する。さらに、地方自治体におけるWell-being指標の活用を促進する。

2024

「賃金と物価の好循環」や「成長と分配の好循環」の拡大・定着を通じて、希望あふれるWell-beingの高い社会の実現を目指す。

経済新生への道行

き

短期

デフレからの完全脱却
成長型の新たな経済ステージへの移行

中長期

少子高齢化・人口減少の克服
豊かさと幸せを実感できる持続可能な経済社会

5つのAction

- ①物価上昇を上回る賃上げの定着
- ②構造的価格転嫁の実現
- ③成長分野への戦略的な投資
- ④スタートアップネットワークの形成

⑤新サービス創出と社会実装

33年ぶりの賃上げ
設備投資 100兆円
過去最高の経常利益

2024

5つのVision

- ①社会課題解決をエンジンとした生産性向上と成長機会の拡大
- ②誰もが活躍できるWell-beingが高い社会の実現
- ③経済・財政・社会保障の持続可能性の確保
- ④地域ごとの特性・成長資源を活かした持続可能な地域社会の形成
- ⑤海外の成長市場との連結性向上とエネルギー構造転換

生産年齢人口の減少
実質1%を上回る成長を確保
更なる成長を目指す

2030

2060

1

1,000兆円

600兆円

満足度・生活の質に関する調査報告書2024

～我が国のWell-beingの動向～

(概要)

<本報告書の背景・目的>

我が国の経済社会状況について、GDPだけでなく、満足度・生活の質に関する幅広い視点からWell-beingの動向を「見える化」することが重要である。こうした観点から、主観的指標である「生活満足度」（生活に満足しているかを0点～10点で自己申告するもの）や、関連する仕事や家庭の状況、生活実態の動向を把握するため「満足度・生活の質に関する調査」を2019年2月に開始した。今般、第6回調査（2024年2月実施）の調査結果を分析し、報告書を取りまとめる。

2024年8月

内閣府 政策統括官（経済社会システム担当）

満足度・生活の質に関する調査について

- 約10,000人へのインターネット調査（うち約5,500人は前回調査からの継続サンプルであるパネル調査）。
- 総合的な生活満足度、13分野別の満足度、回答者の基本属性や仕事、家庭の状況等により、主観・客観の両面からWell-beingを多角的に把握。

生活満足度 （総合的な満足度）

13分野別満足度

家計と資産の満足度

雇用環境と賃金の満足度

住宅の満足度

仕事と生活(WLB)の満足度

健康状態の満足度

自身の教育水準・教育環境
の満足度

社会とのつながりの満足度

政治・行政・裁判所への信頼性
の満足度

自然環境の満足度

身の回りの安全の満足度

子育てのしやすさの満足度

介護のしやすさ・されやすさ
の満足度

生活の楽しさ・面白さ
の満足度

基本属性に関する質問（例）

○性別 ○年齢 ○居住地 ○世帯構成 等

今回調査のトピックに関連する質問項目（例）

＜生活満足度を判断する上で重視している事項＞

- 生活全体の満足度を判断する際に、重視した事項（13分野から上位3つを選択）
- 生活する上で評価している事項（13分野から上位3つ及び下位3つを選択）

＜満足度の過去、現在、未来の動向＞

- 5年前、5年後の生活全体の満足度（5年前の生活にどの程度満足していたか、5年後の生活にどの程度満足していると思うか等）

＜働き方（転職・起業）と満足度＞

- 転職意向の有無・転職活動の状況について
- 起業意向の有無・起業活動の状況について

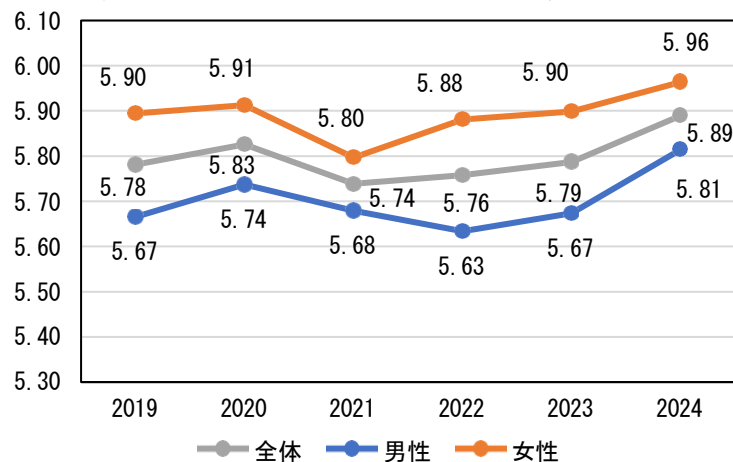
＜生涯を通じた就業意向と満足度＞

- 生涯を通じた労働への考え方について（何歳ごろまで仕事がしたいか等）

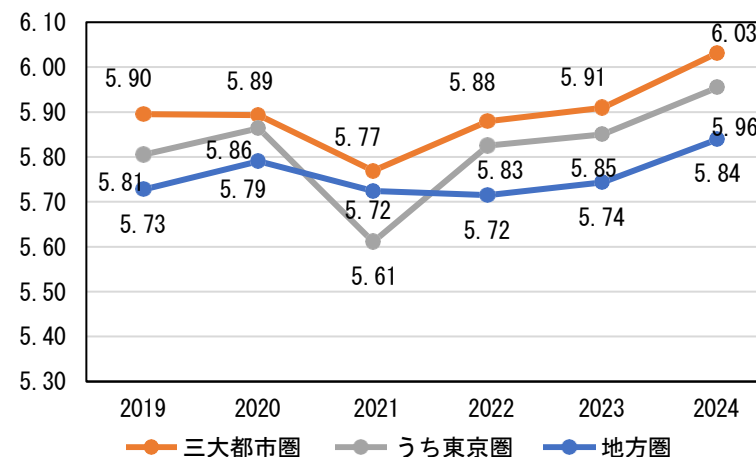
①－１ 生活満足度の動向

- 生活満足度は、5.89と調査開始以来で最高水準となり、1年間での上昇幅も最大となった。
- 男女別では、いずれも最高水準となったが、特に男性の上昇幅が大きい(図表1－1)。年齢階層別では、全ての階層で上昇したが、40歳-64歳は2020年の水準に至っていない(図表1－2)。
- 地域別では、全ての地域で同程度の上昇(図表1－3)。雇用形態別では、コロナ禍の影響を大きく受けた非正規雇用が引き続き上昇し、正規雇用との水準差は縮小(図表1－4)。

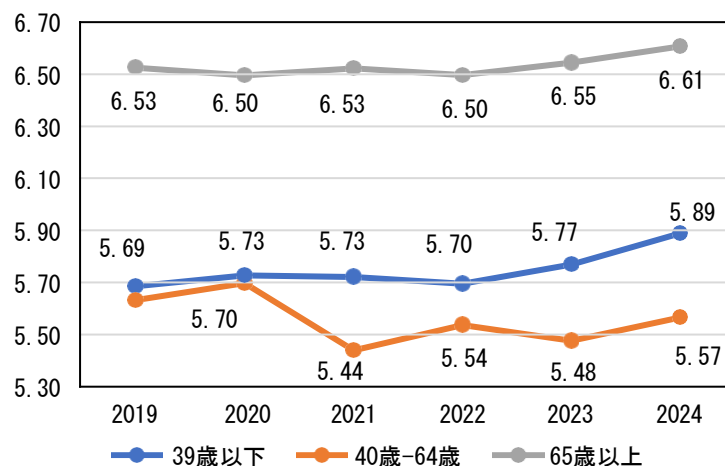
図表1－1 生活満足度の推移（男女別）



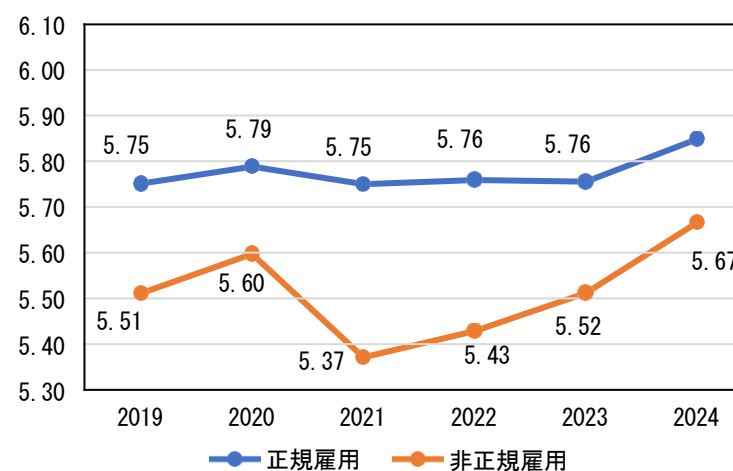
図表1－3 生活満足度の推移（地域別）



図表1－2 生活満足度の推移（年齢階層別）



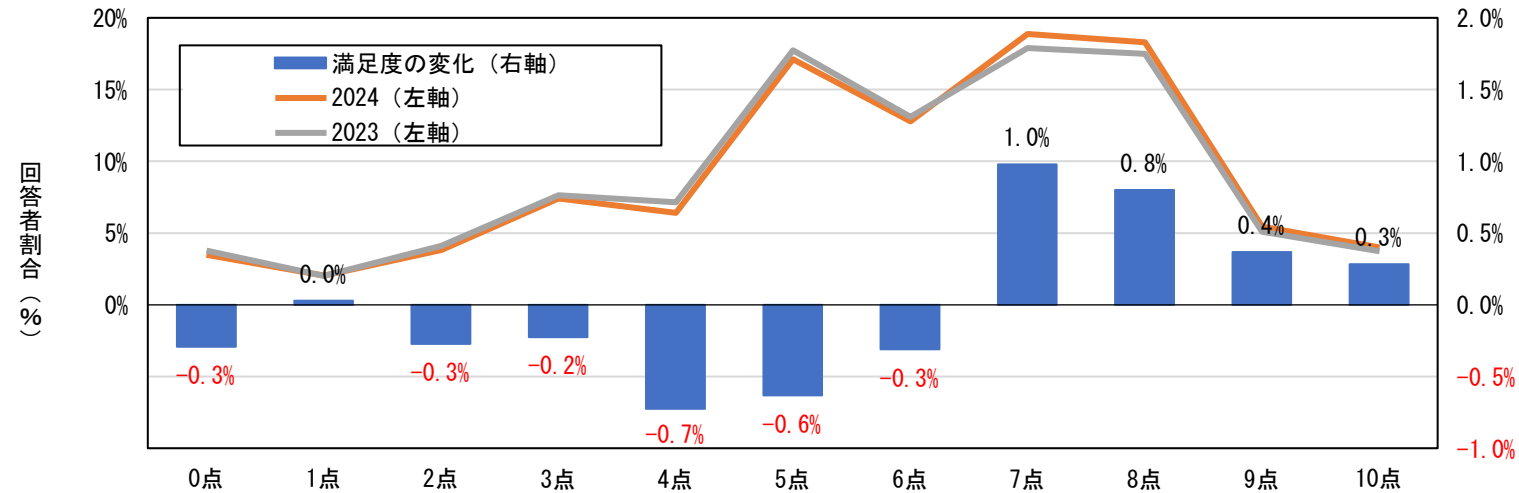
図表1－4 生活満足度の推移（雇用形態別）



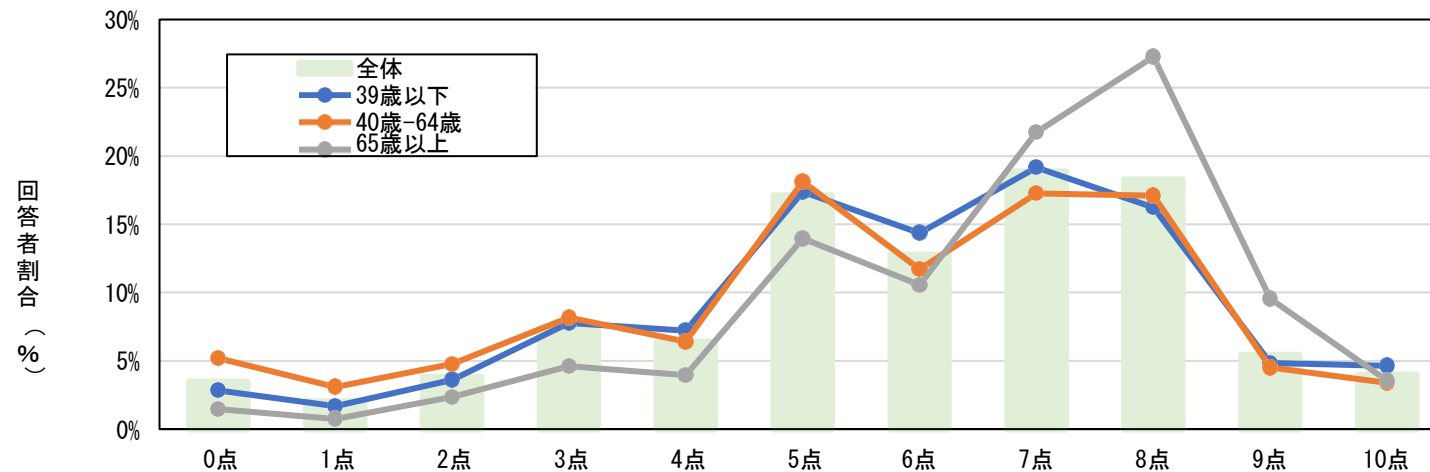
①－3 生活満足度の点数別分布

- 生活満足度の点数別の分布をみると7点が最頻値、次いで8点、5点が多い(図表3－1)。前回と比較して、7点以上の割合が上昇。
- 39歳以下の層は7点、40歳－64歳の層は5点、65歳以上の層は8点が最頻値となっており、年齢別にみた分布に違いが見られる(図表3－2)。

図表3－1 生活満足度の点数別の回答者割合の変化



図表3－2 生活満足度の点数別の回答者割合 (年齢階層別)

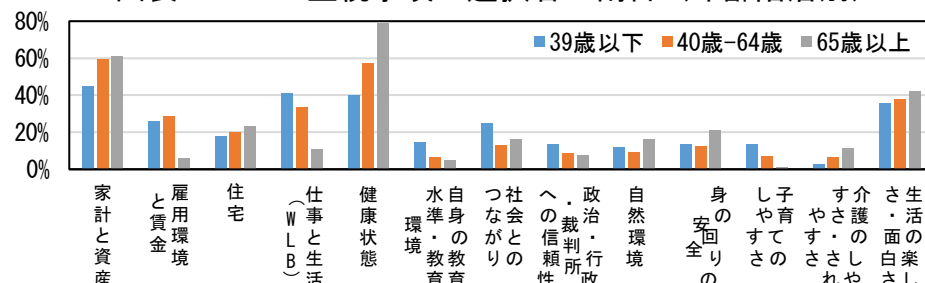


(備考) 図表3－1は、2023年調査、2024年調査の比較。図表3－2は2024年調査の年齢階層別の分布。

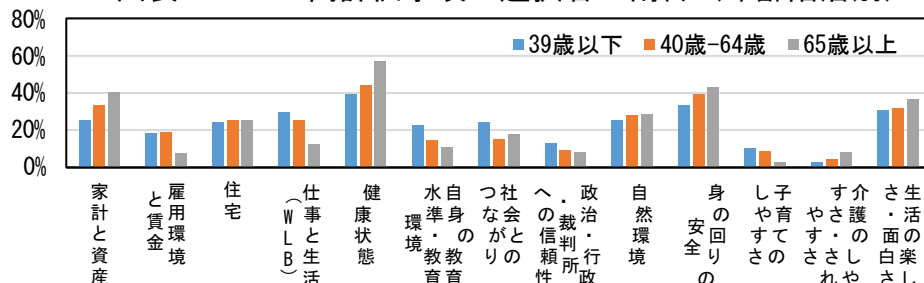
②－１ 生活満足度を判断する上で重視している事項

- 重視している事項は年齢階層別に違いはあるものの、「家計と資産」「健康状態」「生活の楽しさ・面白さ」はいずれの年齢層でも重視されている（図表４－１）。
- 「健康状態」「生活の楽しさ・面白さ」は重視している人の割合に対して高評価している人の割合も高いが、「家計と資産」は重視している人の割合に対して低評価している人の割合が比較的高くなっている（図表４－４）。
- なお、「自然環境」や「身の回りの安全」は重視されていないが、高評価されている（図表４－４）。

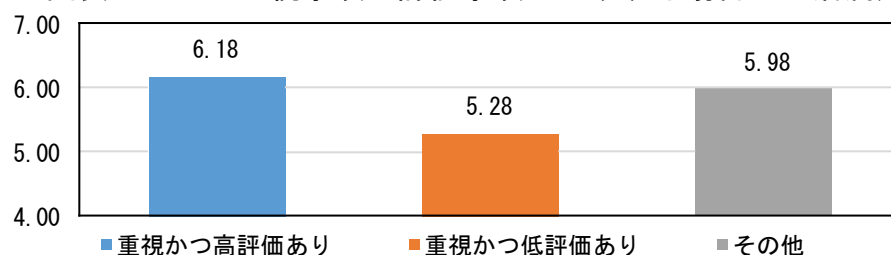
図表４－１ 重視事項の選択者の割合（年齢階層別）



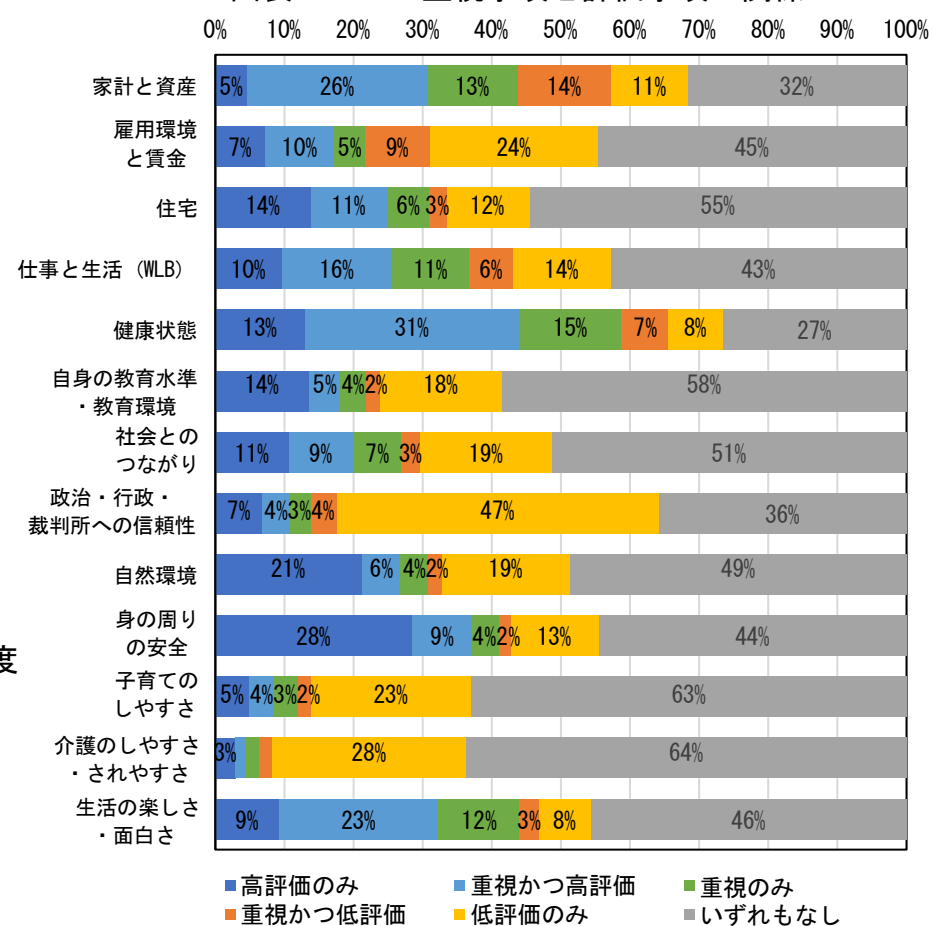
図表４－２ 高評価事項の選択者の割合（年齢階層別）



図表４－３ 重視事項と評価事項が一致する場合の生活満足度



図表４－４ 重視事項と評価事項の関係



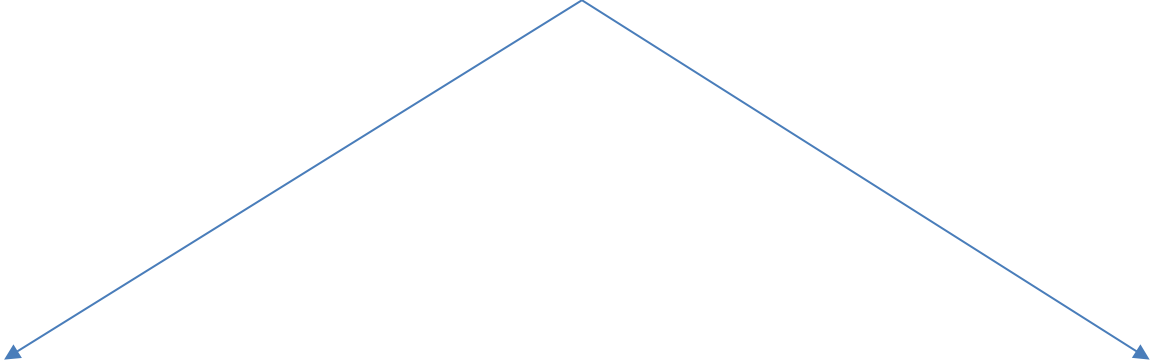
（備考）13分野のうち、生活満足度を判断する際に重視した事項の第1位から第3位を「重視事項」、生活するにあたり高く評価している事項としての上位3つを「高評価事項」、低く評価している事項としての下位3つを「低評価事項」として分析。図表４－３について、重視かつ高評価の分野と重視かつ低評価の分野の両方に該当するサンプルは、「重視かつ高評価あり」と「重視かつ低評価あり」の両方に重複計上している。

GDPが「客観的な豊かさ」を示す指標だとすると
GDW（国民の主観的ウェルビーイング）は
「主観的な豊かさ」を示す指標であると定義づけ、
継続して測定しつづけています。



2022年12月より四半期GDPのタイミングにあわせて、
四半期毎のGDWを公表してきました。

ウェルビーイングとは？



```
graph TD; A[ウェルビーイングとは？] --> B[客観的ウェルビーイング<br/>(健康、教育、所得など)]; A --> C[主観的ウェルビーイング];
```

客観的ウェルビーイング
(健康、教育、所得など)

主観的ウェルビーイング

よって、主観的ウェルビーイングの測定は

「シンプルな2問」 を組み合わせて行うのが

いまの国際標準である

ウェルビーイング実感は、「World Happiness Report（国連の関連団体である持続可能な開発ソリューション・ネットワーク）」や「Better Life Index（OECD）」で採用されている主観的ウェルビーイング調査にならない、下記方法によって測定・定義される。

質問文：

それでは、梯子（ハシゴ）を想像してみてください。
その梯子には、一番下は0、一番上には10と数字が付いています。
一番上の10があなたにとって最も理想的な生活で、
はしごの一番下の段が最悪の生活を表すと考えてください。



10 段目：最も理想的な生活

0 段目：最悪の生活

質問項目：

Q1. あなたは、今現在、はしごのどの段に立っていると感じていますか？

Q2. あなたの想像では、5年後にはどの段に立っていると思いますか？

この2問を用いて、下記の通りウェルビーイング実感を算出する。

ウェルビーイング実感の算出方法：

ウェルビーイング実感が「高い」：今(Q1)が7点以上かつ5年後(Q2)が8点以上の人たち

ウェルビーイング実感が「低い」：今(Q1)が4点以下かつ5年後(Q2)が4点以下の人たち

ウェルビーイング実感は、「World Happiness Report（国連の関連団体である持続可能な開発ソリューション・ネットワーク）」や「Better Life Index（OECD）」で採用されている主観的ウェルビーイング調査にならない、下記方法によって測定・定義される。

質問文：

それでは、梯子（ハシゴ）を想像してみてください。
その梯子には、一番下は0、一番上には10と数字が付いています。
一番上の10があなたにとって最も理想的な生活で、
はしごの一番下の段が最悪の生活を表すと考えてください。



10段目：最も理想的な生活

0段目：最悪の生活

質問項目：

Q1. あなたは、今現在、はしごのどの段に立っていると感じていますか？

Q2. あなたの想像では、5年後にはどの段に立っていると思いますか？

この2問を用いて、下記の通りウェルビーイング実感を算出する。

ウェルビーイング実感の算出方法：

ウェルビーイング実感が「高い」：今(Q1)が7点以上かつ5年後(Q2)が8点以上の人たち

ウェルビーイング実感が「低い」：今(Q1)が4点以下かつ5年後(Q2)が4点以下の人たち

ウェルビーイング実感が高い人たち

(今の生活評価が7点以上 & 5年後の生活評価が8点以上)



つまり

“今の生活にある程度満足し、かつ

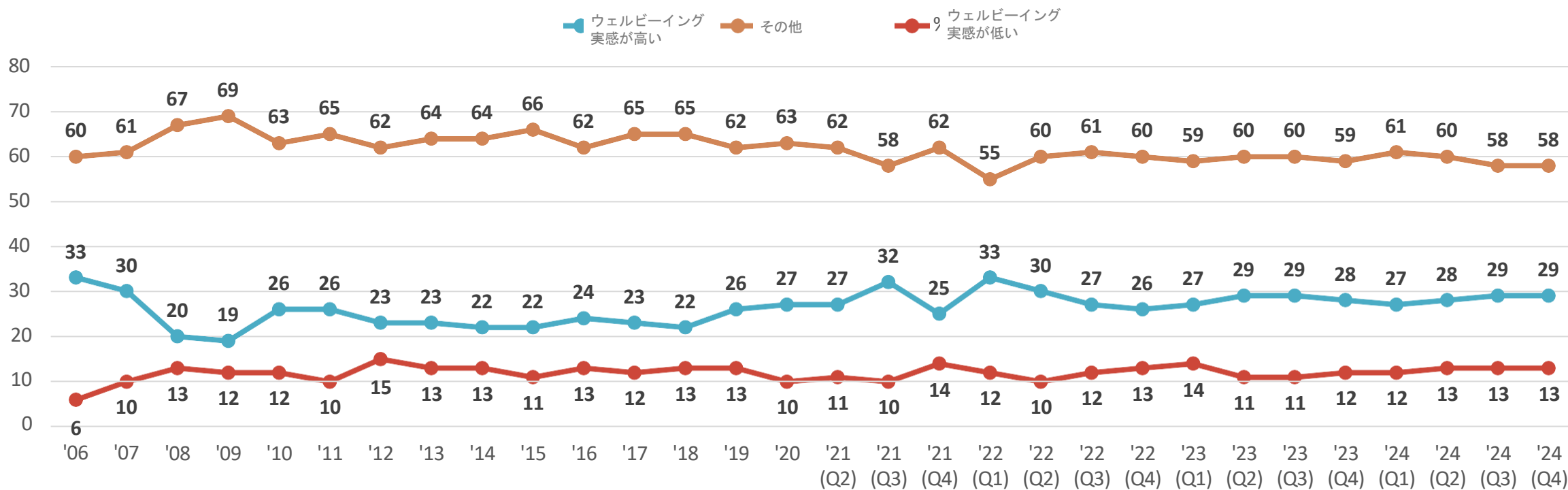
将来の生活に対して明るい見通しを持っている”

人たちの割合

生活評価指数

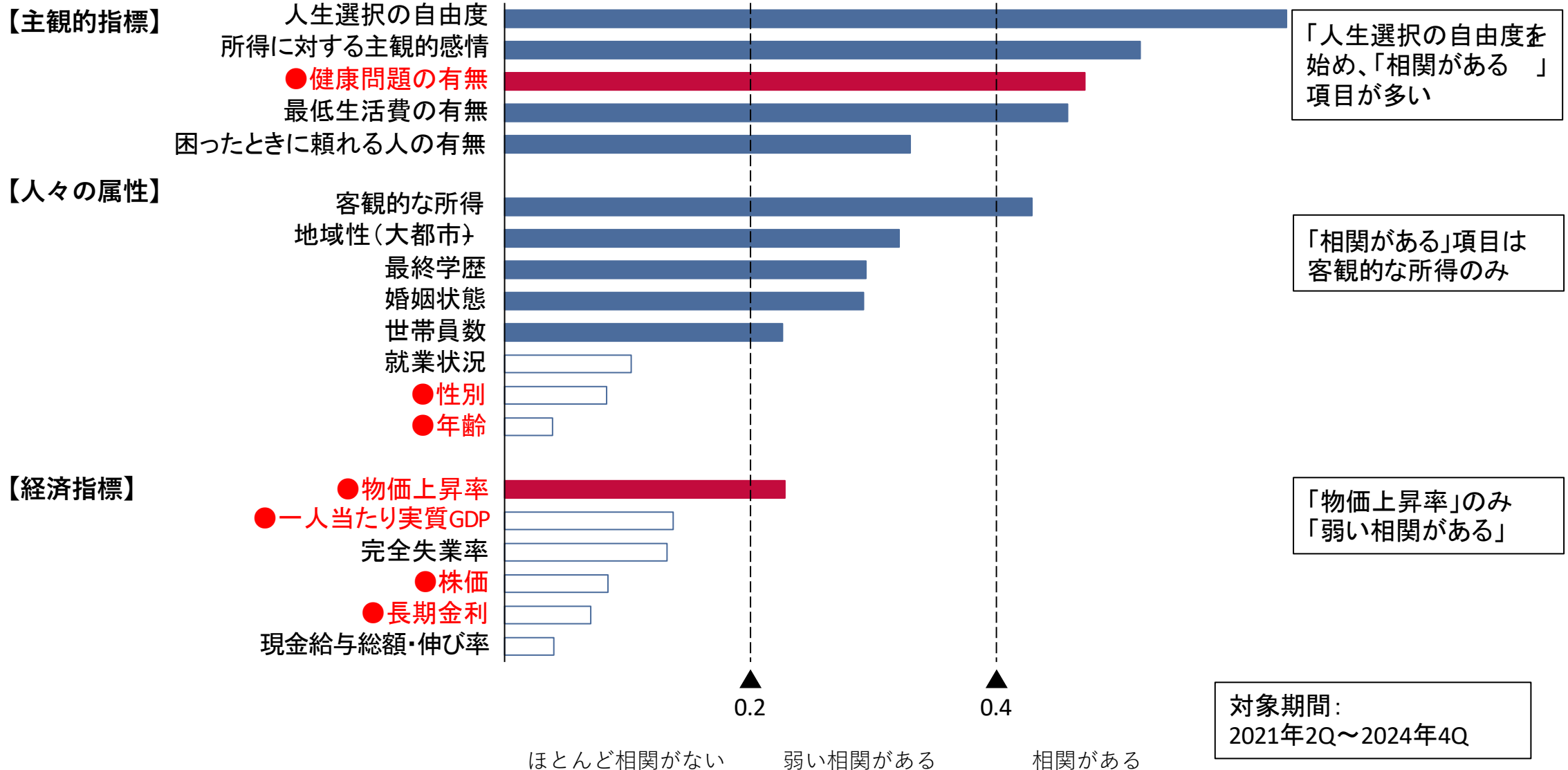
ギャラップ社は、最悪の人生を「0」、最も理想的な人生を「10」とする「キャントリルの階段」を用いて、人々が現在の生活と5年後の生活をどう評価しているか調査します。現在の生活評価が7点以上で将来の生活評価が8点以上の回答者を「ウェルビーイング実感が高い」(thriving)、現在の生活評価と将来の生活評価のどちらもが0～4点の回答者を「ウェルビーイング実感が低い」(suffering)とし、ウェルビーイング実感が中程度である回答者を「その他」(struggling)として分類します。

日本で暮らす人々のウェルビーイング実感



ギャラップ社による世論調査

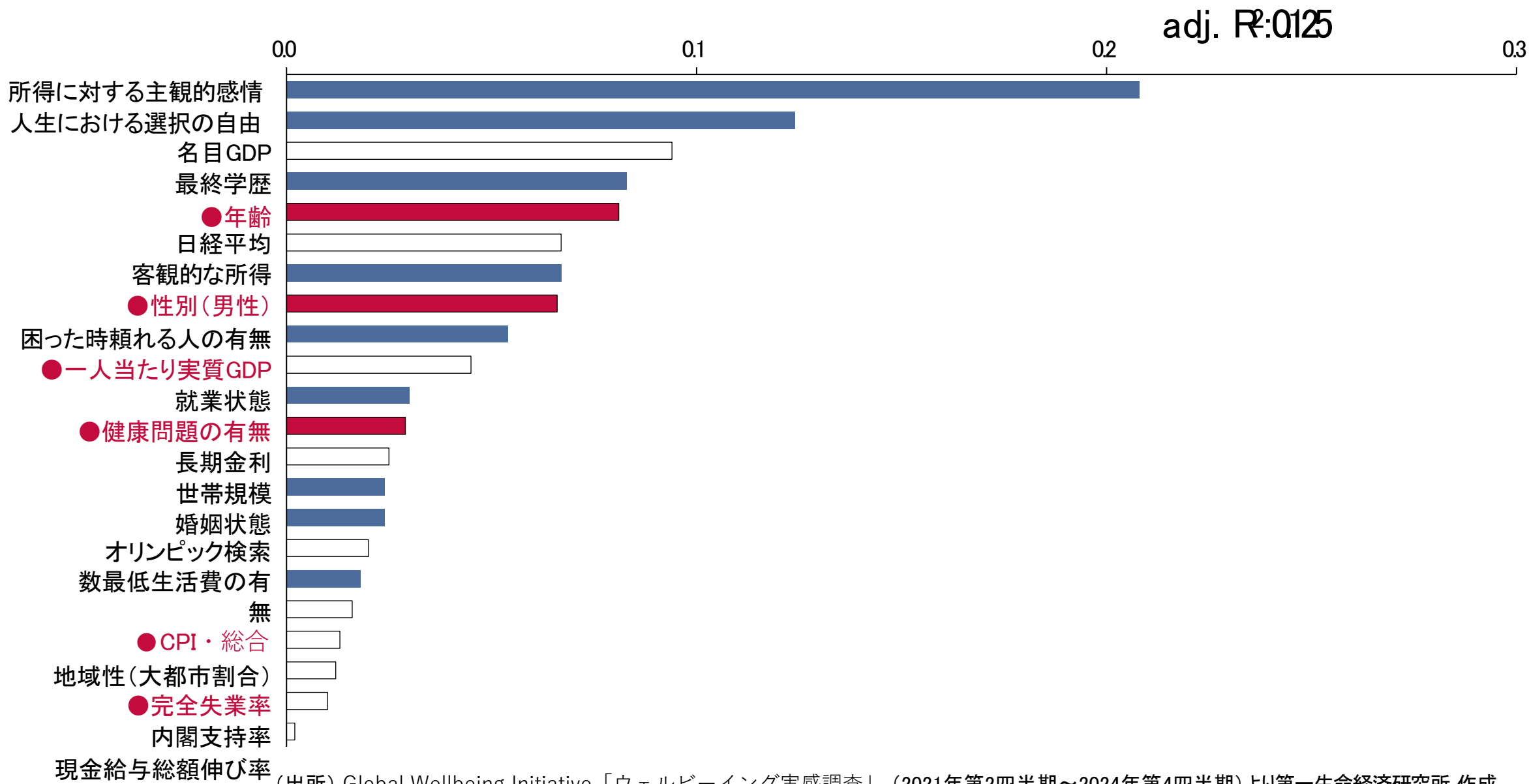
ウェルビーイング実感が高い人の割合と各種指標の相関関係



(出所) Global Wellbeing Initiative (2021年第2四半期～2024年第4四半期)、内閣府「月例経済報告」より第一生命経済研究所作成

(注) ●を付けた項目は「負の相関」、相関係数0.2未満の「ほとんど相関がない」項目は白抜きの棒グラフ

重回帰分析の結果(標準編回帰係数)



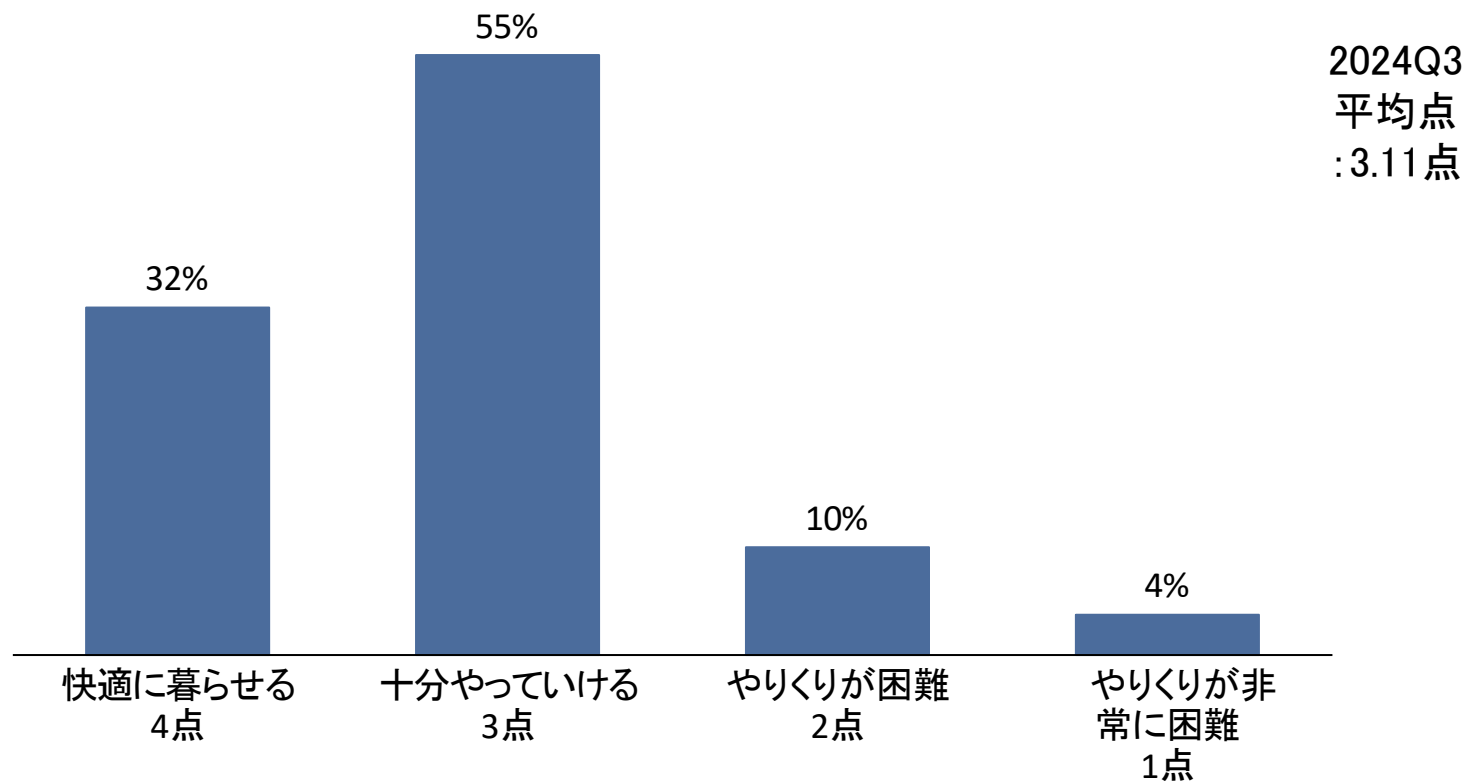
(出所) Global Wellbeing Initiative「ウェルビーイング実感調査」(2021年第2四半期～2024年第4四半期)より第一生命経済研究所 作成

(注) ●を付けた項目は「負の相関」、有意ではない項目は白抜きの棒グラフ。

所得に対する主観的感情とは

≡最近の家計所得に対する満足度（以降、家計満足度）

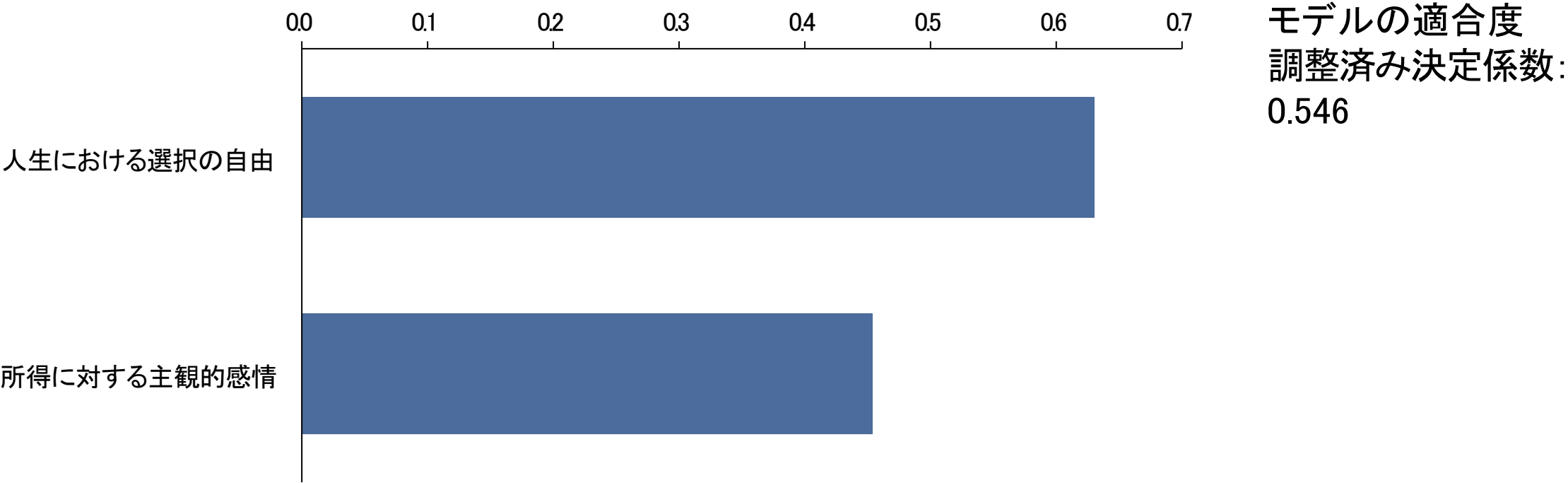
Q.最近の家計所得に関するあなたの感情について、以下の表現のうち最も近いものを選んでください。



（出所）Global Wellbeing Initiative「ウェルビーイング実感調査」（2021年第2四半期～2024年第4四半期）より第一生命経済研究所 作成

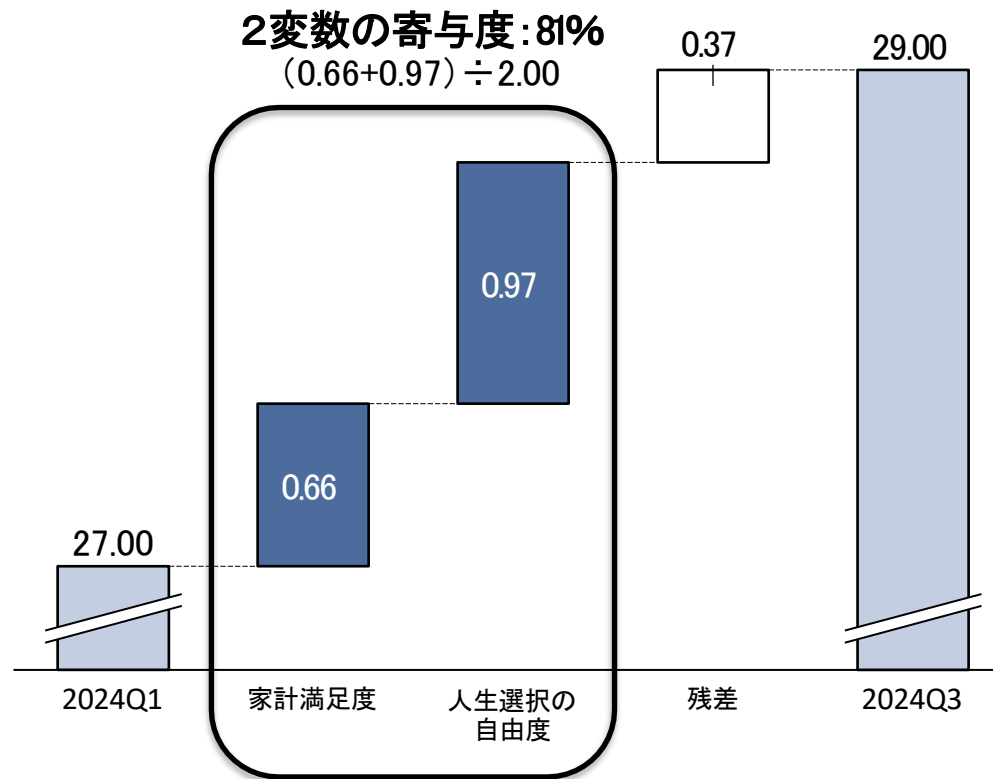
（注）●を付けた項目は「負の相関」、有意ではない項目は白抜きの棒グラフ。

時系列データ・重回帰分析の結果(標準編回帰係数)



家計満足度と人生選択の自由度の上昇が約8割を占める

四半期ウェルビーイング実感・直近上昇局面の各説明要因の寄与度



(出所) Global Wellbeing Initiative 「ウェルビーイング実感調査」 (2021年第2四半期～2024年第4四半期)より第一生命経済研究所 作成

(注)説明要因は前スライドの重回帰分析で係数が有意と判定された項目を抽出。標準偏回帰係数の降順で並べ替え。

(ポイント)

現在の生活評価（3年平均）

コロナ後G7の中で日本だけ
ウェルビーイング実感上昇
→なぜか？

